

「人生を変えたイエスとの出会い」

～この道にすべてを懸ける～

「兄弟姉妹よ。私もまだまだイエスまではほど遠いと知っている。私はただ、過去に捕らわれず、目の前の目標を達成するため全力前進している。最終地点であるイエスを目指し、そこにある私の宝めかけて全力をあげているんだ！それは神がイエス・救世主(キリスト)をとおして私を天に呼びよせたからだ。一人前のイエスを信じる者(クリスチャン)ならこうあるべきだ。もし何らかの点でこの考え方からずれているなら、神はきつと指摘してくれるだろう。まだそこに到達していなくても、受けとっている真理を歩み続けるのだ！」ピリピ人への手紙3章13～16節 [アライブ訳]

イエス・キリストを自分の救い主として信じてクリスチャンになってからの私たちの歩みは、そのイエス様を目指す生き方となる。信じて洗礼を受けることがゴールではなく、そこで初めてスタートラインに立っただけで、そこからが栄冠を勝ち取るための新しい人生のスタートとなる。

パウロは目の前にキリストが現れて、強制的に人生を変えさせられた過去があるが、あそこでキリストに出会っていなければ、もっともっと大きな罪を犯してもどうしようもない状況になっていただろう。あの時が彼にとっての人生のターニングポイントだったのだ。

愛する兄弟姉妹の皆様にとっても、主によって導かれる人生となったターニングポイントがあった事と思います。しかし、そこがスタートであって、私たちは今も前に向かって、未来に向かってチャレンジし続ける毎日となっていかなければなりません。

しかし、時には挫折しそうになる失敗を犯してしまうこともあります。どうやっても抜け出せない状況。そんなときは大抵“自分で何とかしなければならぬ”と考えてしまっていると思います。私もそんな“負のスパイラル”にはまり込んでしまい、家族にも迷惑をかけてしまうこともよくあります。自分でもどうすることもできない。自分で今の自分の状況を理解することも変化させることもできないことが起ります。そんな時、思い切って主の前に出て祈ります。「主よ、どうかしてください。自分で自分をどうすることもできないのです。」その後、すぐに好転する訳ではありませんが、時間をかけて、御言葉を通し、人間関係を通して主は私自身を修復してくださいます。パウロも同様でした。“鉄人”のようにパウロを見てしまっていた部分もありますが、そうではなく、パウロは常に自分との闘いの中にありました。本日の聖書箇所でも、人の自分に対する意見に、過剰に反応してしまっている彼がいました。しかし、彼が行き着いたところは、「誇る者は主を誇れ！」私たちには何も誇れるところはない。ただ自分が目標としているあのお方は、本当に素晴らしい、実に自慢すべきお方なのだ！と宣言しています。パウロはよほどイエス様に惚れ惚れしていたと思います。それほど、主の愛を深く体験していたと思います。イエス様はそんなお方なのです。私たちを惚れ惚れさせてくださるお方なのです。どれだけ研究しても研究したりない壮大なお方なのです！